

研究部だより

令和7年11月11日発行

第4号

担当：高橋

木々の葉が色づき始め、学びの秋がやってきました。日々の実践を振り返りながら、改めて、「伝えること」「支えること」を学ぶ季節にしたいですね。

今号は、中学部3学年の取り組みを紹介します。(学びの秋ということで、担当が今回の授業実践から感じたことを、最後に少しだけまとめてみました。)

ICT を活用した授業実践④

中学部3学年 生活単元学習（見学旅行事前学習）

授業者 下川原 彩乃

対象生徒の様子

- ・日常的にタブレット端末を使用しており、タップやスワイプなどの基本操作ができる集団である。
- ・見学旅行の調べ学習をする上で、実態差が大きく、実態に合わせて指導の個別化が必要である。
- ・見学旅行の行き先についてはオリエンテーションで事前に確認しており、生徒たち自身も見通しをもち、意欲的に学習に参加する様子が多く見られている。

ICT 活用の意図

- ・見学旅行について自らの力で行き先などについて調べ、見通しがもてるようにするため。
- ・生徒自身が自分のできる範囲を理解し、検索する手段を自己選択して学習を行うため。
- ・毎時間調べ学習の場面を設定し、検索することに慣れ、徐々にレベルの高い検索方法に挑戦できるようにするため。

ICT 活用の成果

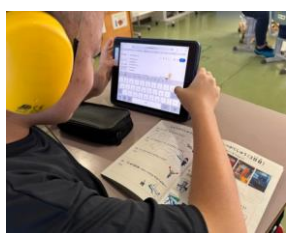
- ・生徒一人一人が見学旅行に向けて意欲的に学習に向かい、生徒自身が文字（平仮名やローマ字）入力や音声入力、QRコードの読み込みなど検索方法を自己選択して学習することができた。
- ・どの生徒も自ら検索したホームページや映像を見て、見学旅行の行き先について見通しをもつことができた。
- ・生徒自身が画面に表示されている内容と課題を見比べて、正解を発見できた達成感や充実感を感じている発言や表情を伺うことができた。



① QRコード読み込み



② 平仮名・音声入力



③ ローマ字入力



QRコード読み込み



魚の手話をする



QRコード読み込み



課題と同じ写真を探す

～今号の担当が、実践報告から感じたこと～

ICT 活用の意図 の網掛け部分、「自分の力で」「自己選択」を意識した授業準備は、児童・生徒の主体性や意欲を引き出しつつ、集団における実態差へのアプローチにも適しているということが、成果として出ていたと感じました。また、「徐々に～挑戦」するための授業・教材準備もとても丁寧で、そのことが、基本操作の定着や、スモールステップで充実した評価を得られることによる達成感や充実感に繋がっているのだと感じました。今回の実践報告から、活用方法や活用内容もちろん大事ですが、授業者がどんな意図で ICT を活用するかがとても大事だと、学ばせていただきました。下川原先生、ありがとうございました。